



大原やすお

福岡市議会議員《早良区》

福岡市議会議員 大原 やすお

コロナ禍で苦労している多くの人の大きな励みになったのではないかと思います。コロナという大きな災害に見舞われていま、努力は報われることを信じながら家族の絆、地域の絆、社会の絆を改めて認識し合っているのではないかと思います。私も議員として市民の皆さんの声をお聞きしながら、市民生活の向上に向けて邁進していく決意です。

この大会は昨年東京オリンピックで金メダル奪取に湧いた日本人アスリートたちの活躍が期待されていました。中でも注目を集めているのが池江璃花子選手、突然の急性白血病でどん底に落とされても、僅か一年半で奇跡の復帰を成し遂げ東京オリンピックに出場することができました。その池江選手が「未来は自分で変えていくものだ」と思っています。

福岡市で五月に予定されていた国際水泳大会も再び来年七月に延期されました。コロナ禍で疲弊している市民生活や地域経済の活性化に繋がるものとして期待していただけに大変残念です。



やすおのこゝろ

地下鉄七隈線 博多駅へ延伸 令和5年3月開通



櫛田神社前駅シンボルマークも決定

2005年開業の七隈線。2013年着工の延伸区間がいよいよ来年3月に開通します。天神南駅から博多駅に通じ、新しく櫛田神社前駅が設置されます。シンボルマークは櫛田神社の銀杏の葉と祇園山笠の舁き縄がデザインされています。

新型車両も導入される予定、楽しみが増え市民にも観光客にもぐっと便利になります。

早良区四箇田団地隣に開館 地域の交流拠点 ともてらす早良 (早良南地域交流センター)



待望の交流センターが昨年11月オープンしました。大ホール、図書館、大小会議室、練習室、チャイルドルームなどを備え、世代を超えた交流と学びの場です。愛称「ともてらす」は地域の人々を「とも(友)」とし、それを優しく「てらす(照らす)」。そんなイメージで公募により名づけられました。

地域交流の拠点となる施設です。大いに活用して交流を深めましょう。

令和4年度予算案

一般会計 / 1兆410億円

福岡市議会第1回定例会(2月16日~3月25日)で令和4年度予算案が審議されます。令和4年度は社会保障予算が増加するとともに、新型コロナウイルス感染症対応経費も引き続き必要になることから、一般会計予算案は3年度並みの1兆410億円で提出されました。

主な内容

1. 新型コロナウイルス感染症対応経費 (総額 2.193 億円)

- ◎検査・医療提供体制の充実 127 億円
 - ・新型コロナウイルスワクチン接種(3回目)等を実施 / 70 億 1 千万円
 - ・濃厚接触者等の検査事業 / 5 億 9 千万円
 - ・医療・介護施設等従事者検査事業 / 9 億 4 千万円
- ◎事業者の支援 2.008 億円
 - ・商工金融資金預託金 / 1.949 億円
 - ・商店街プレミアム付商品券事業 / 1 億 2 千万円
 - ・保育所等整備費助成 / 2 億 2 千万円
 - ・保育所等への感染症予防対策支援事業 / 2 億 8 千万円



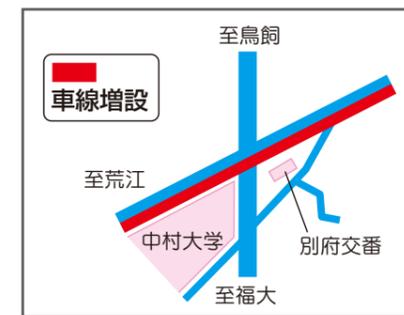
2. 住みやすいまちづくりのために

- ◎子どもの貧困の連鎖を断つ(総額 5 億 3 千万円)
 - ヤングケアラー相談支援事業(新規) 3 千 5 百万円
- ◎地域コミュニティの活性化(総額 8 億 5 千万円)
 - 町内会活動支援事業(新規) 4 千 1 百万円
- ◎障がいのある方が暮らしやすいまち(総額 8 億 6 千 7 百万円)
 - 障がい者施設工賃向上支援事業(新規) 3 千 6 百万円
- ◎豊かな自然を感じられるまち(総額 6 億 1 千 9 百万円)
 - 油山市民の森等リニューアル事業 5 億 7 千万円
- ◎交通・人流・物流機能の強化(総額 130 億 6 千万円)
 - 地下鉄七隈線延伸事業 60 億 1 千万円
 - 生活交通支援事業 1 億 1 千万円
- ◎ごみ減量・リサイクル(総額 7 千 5 百万円)
 - プラスチック回収モデル事業 5 千 6 百万円



国道202号線 中村大学前交差点の車線増設工事はいつ完成?

慢性的な車の渋滞解消のため国の直轄事業として、中村大学前交差点(国道202号線)は車線増設工事が行われています。南側の中村大学や交番のセットバック工事は終わりましたが、国道には電線等の埋設物があり、その移設にかなりの工期を要することから、令和5年3月頃に完成の見込みです。



福岡市議会議員 大原やすお事務所

地域の方々と一緒に取り組んでいます。

福岡市早良区次郎丸4丁目9-37 (サンラーク次郎丸)
TEL 092(863)9567
FAX 092(863)9568
mail info@oohara-yasuo.jp



農地の減少が止まらない！ もっと兼業農家支援を！

令和3年6月議会

福岡の美味しい米や野菜を育てている農地。食料自給率38%の日本では自給率を上げ農作物の自給に努めなければなりません。

農地は食物の生産だけではない大きな役割を担っています。それが多面的機能です。美しい自然環境の維持、水をたくわえる涵養の役目、それに伴う水害防止。私たちの生活は農地に支えられているとも言えるのではないのでしょうか。

担っている農家の7割は兼業農家です。所得向上につながる施策で農家の減少を食い止めることが大切です。

市は耕作放棄地の増加は農地が保有する多面的機能が失われるのでどうすべきかスピード感をもって対処すると答弁。大いに期待したいところです。



早良区南部の棚田

耕作放棄された農地



老人いこいの家 集会所として存続

令和3年6月議会

田村公民館の建替えに伴って老人いこいの家との合築が行われました。今まで公園内にあった老人いこいの家を解体するとの説明に地元町内会は困惑。地元である城角町内は老人いこいの家を長年集会所として利用されており、解体されれば活動の場がなくなり、町内会の存続すら難しくなることから、従来通り、集会所として存続させてほしいと要望されました。

しかし、様々な制約があり市は難色を示しましたが、議会質問で地域コミュニティーや町内会の存続のために旧老人いこいの家の必要性を訴え、従来通り集会所として存続することになりました。

早良区に多目的グラウンドを

令和3年 要望

野球やサッカーなどの球技大会やイベントができる多目的グラウンドの設置要望が早良区の自治協議会をはじめいろいろな団体から寄せられています。

私たち自民党議員は市長に、早良区中部にあたる四箇に多目的グラウンドの早期着工のための調査費を計上していただくように要望いたしました。

財政状況が厳しいなかではありますが、引き続き早期設置を目指して努力してまいります。

住み慣れた地域で安心して暮らしたい 老人ホームは市街化調整区域*になぜできないの？

令和3年12月議会



昨年、市街化調整区域に農業を通じて高齢者の心身の健康と生きがいを目的とした農福連携の有料老人ホーム建設の申請が行われましたが、そこでなければならない理由が無いと却下されました。国は市街化調整区域に有料老人ホームを設置することに問題はないとしています。しかし、市はここ10年間建設を認可していません。

そこで12月定例議会で、福岡市は何故10年来認可してこなかったのか、このままでは高齢者住宅確保が間に合わないのではないかと質問しました。

2025年には5人に1人が後期高齢者という超高齢化社会を迎えますが高齢者住宅は不足しています。「住み慣れた地域で自立した生活を安心して送る」という地域包括システムの基本的な考えを踏まえ、市は平成25年に「高齢者居住安定確保計画」を策定し推進しています。高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持って生活ができる安価な住居の確保に引き続き取り組む決意です。

*市街化調整区域＝郊外で土地利用が制限されている区域

大原やすおの議会報告

健康診断での事故、曖昧な市の対応を追及

福岡市が行っている健康診断。7年前、西区の公民館で行われた胃がん検診で起きた肺への大量バリウム流入事故。人生100年を願って受けた検診で事故に遭われたKさんは5年後に呼吸不全で亡くなりました。市は「問診時に過去の病歴の申し出が不正確だったことから起きた事故」として「事業団や市には責任はない」つまり自己責任として結論付けられました。

ご家族は、この検診の委託元である福岡市に6年もの間、事故の原因と対応について説明を求めてこられました。市独自の調査はおろかご家族からの聴き取りさえなく、判断や回答は全て事故当事者であり受託者である事業団からの報告に依存したものでした。

市は一貫して事業団の事故発生時の一連の対応には大きな瑕疵はなかったと主張されます。ご家族から相談を受け担当部局と何度も話し合いの場を持ちましたが、何ら進展が見られないことから、令和2年9月議会に於いて、まず原因究明を行うことを強く要望いたしました。その後、県の医師会の医療事故調査会によってようやく原因について調査が行われるようになりました。

この件で3回目となる令和3年12月定例会に於いて、何故もっと早く第三者による事故の検証が行われなかったのか、事業団の報告だけに頼ることなくご家族からの主張を聞き市独自の調査・検証を行うべきではなかったのかについて追及しましたが回答には納得できないままです。

最後に市長に対し市が主催する集団検診事業で事故が発生し、ご本人・ご遺族が事故の説明に疑問を持たれ解消されない場合、第三者委員会に異議申し立てできる制度を創設していただくように要望いたしました。



バリウムが流入したレントゲン写真を示しながら質問する大原議員

【ご家族と福岡市の主張の相違点】

	ご 家 族	福 岡 市
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> バリウムの飲み方が遅いと職員から顔を上向きに固定され飲まされた。 入院はインフルエンザによる肺炎であって過去に誤嚥は一度も無かった。 	<ul style="list-style-type: none"> バリウムはご本人ご自身で飲まれたもの。 問診時、過去に誤嚥性肺炎で入院したことの申し出がなかった。 何らかの原因で嚥下機能が低下したために起きた事故。
事故後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 大量のバリウムが肺に流入しているのは重篤ではないのか。 大量のバリウム流入が分かっているながら何故救急車ではなくタクシーで診療所に搬送したのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 嘱託医師は肺に大量のバリウムが流入していると聞いたが、重篤な身体的症状がなかったことから、タクシーで診療所への搬送を判断。
結 果	<ul style="list-style-type: none"> タクシーで診療所到着。到着時の酸素飽和度 80%と命の危険があった。 レントゲンを確認した結果、診療所では対応ができないとの医師の判断で救急病院へ移送。 病院では重篤な身体症状の中での治療が行われる。 時間の経過によりバリウムが固化し取り出せなかった。 肺機能が低下し体力も低下したため、口からの飲食が出来ず胃ろうの手術を受ける。 	